

【メールマガジン～近畿運輸局公共交通だより】

2019年1月7日配信（No. 63号）

本メールは、公共交通政策全般について皆様に広く関心を持って頂くため、国土交通省総合政策局公共交通政策部が作成した全国の情報に、近畿運輸局において主に近畿地方の情報を加えて編集し、情報発信するものです。

☆☆☆ご意見・情報がありましたら、以下までお寄せ下さい。☆☆☆

★★★ご意見や情報、メールアドレスの変更はこちらへ★★★

<mailto:kkt-kinki-kikakuka@mlit.go.jp>

なお、本メールの配信停止を希望される方は、上記アドレスまで「配信停止」と記入のうえお知らせください。また、本メールは出典を明記のうえで、関係者の方々に回覧・転送していただいても結構です。

※関係団体の皆様におかれましては、関係交通事業者あてに転送くださると幸いです。

- 「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の中間整理を行いました。
（今注目の「MaaS」の話題です！）（総合政策局 公共交通政策部 交通計画課）
- 新たに5件の「地域連携サポートプラン」の協定を締結しました。
（今年度は、滋賀県竜王町、京都府久御山町、大阪府太子町、奈良県桜井市、兵庫県朝来市が対象です！）（近畿運輸局）
- 「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。
（近畿から、大阪大学特任教授 土井勉氏、京都バス 児玉次長が登壇されました！）（中部運輸局）
- 「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～を開催しました！（東北運輸局）
- 「路線バスの可能性を考えるシンポジウム」～バス事業の取り組みビフォー・アフター 新たな取り組みにもチャレンジしています！～を1月30日に開催します！（近畿運輸局）
（近畿内のバス事業者・自治体の事例紹介です！）
- 地域交通に大切な視点とは？
地域公共交通活性化シンポジウム2月1日（金）に開催します！（近畿運輸局）
（近畿外の自治体・事業者の事例紹介です！）

<掲示板>

- ☆ 地域公共交通支援センターについて
- ☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について



「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の中間整理を行いました。

(総合政策局 公共交通政策部 交通計画課)

みなさま突然ですが、MaaSという言葉を知ったことがあるでしょうか？

MaaS（マース）とは、Mobility as a Service の略称で、移動をサービスとして捉える概念です。といっても、何を言っているのかわかりにくいので、このような場面を思い描いてみてください。

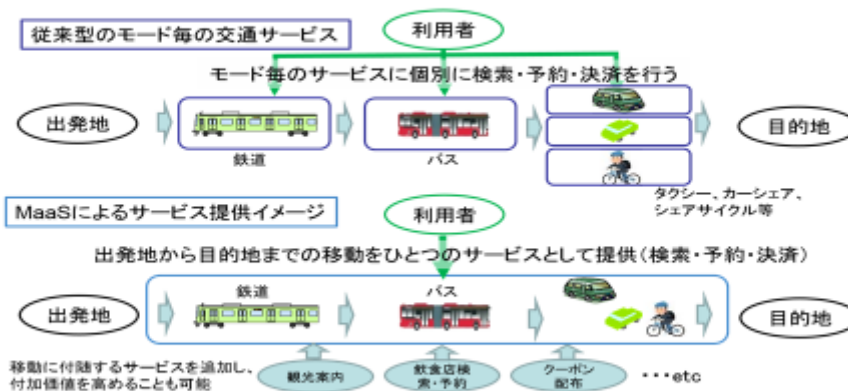
あなたは、お母さんの誕生日のために、プレゼントを買いたいと考えています。お店に行くためには、どのような交通手段を使って、どのように向かうのがいいでしょうか。それは鉄道かもしれませんし、バスかもしれません。あるいは晴れているので、自転車を借りてサイクリングするのもいいでしょう。そのような複数の移動手段について、検索をして、(自転車などを借りる)予約をして、(運賃などの)決済を、一度にできると便利ではないでしょうか。そして、それがプレゼントを売っているお店のクーポンなどと連動していたらなおさら！

MaaS の指し示すものはとても広いですが、例えばそのような社会を目指して、最近、日本を含めた世界中で取組が進んでいます。

MaaSとは？



- MaaS: Mobility as a Service
- 出発地から目的地までの移動ニーズに対し、最適な移動手段に係る検索・予約・決済をスマホアプリでシームレスに実現。



効果

- 公共交通機関の利用シェアの増加(ヘルシンキでのWhimユーザー:48%→74%)
 - 都市部における渋滞の削減や環境負荷の低減
 - 公共交通機関の運行効率化、生産性向上
 - 人流データ収集(→路線の再編)
- 出典: MaaS ALLIANCE "White Paper"
ERTICO "VISION PAPER"

さて、国土交通省公共交通政策部では、そのようなMaaSを含めた新しいモビリティの推進に取り組んでいます。具体的には、都市局と道路局と共同事務局で、平成30年10月に「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」を立ち上げました。懇談会では、学識経験者の方々に委員になっていただき、事業者間のデータ連携の促進、柔軟な運賃・料金の実現、まちづくり・インフラとの連携などについてご議論いただきました。また、この分野は民間の事業者などからどんどん先進的な取組が行われていることから、JR東日本、東急電鉄、小田急電鉄、みちのりホールディングス、JapanTaxi、ジョルダン、JT Bコミュニケーションデザイン、パーク24、東京都、関東鉄道及び筑波大学からお話もうかがいました。そして、それまでの懇談会の議論を踏まえた中間整理を、12月13日(木)に行いました。

今後は、来年3月の中間とりまとめに向けて、さらなる議論を行っていきたいと思います。また、来年度には懇談会の議論を踏まえて、MaaSのモデルとなる実証実験に対する支援も行いたいです。これから

も MaaS について、注目してください！

「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」については、以下のホームページに掲載しております。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000089.html

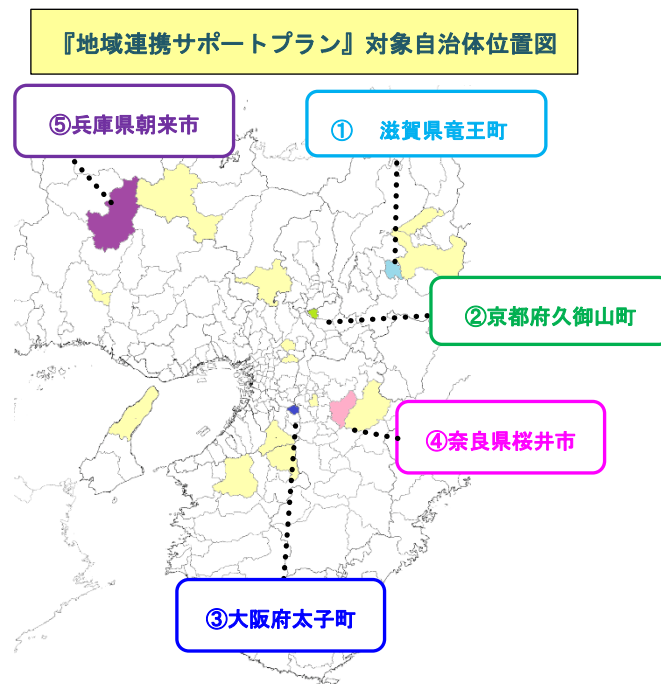
新たに5件の「地域連携サポートプラン」の協定を締結しました。

(近畿運輸局)

近畿運輸局では、平成28年度から、「地域連携サポートプラン」協定を締結した自治体と、地域公共交通の現状把握、意見交換等を進め、提案書を交付することにより地域公共交通に関する課題の解決を支援する取り組みを行っております（平成28年度は7自治体、平成29年度は6自治体（※））。

(※下記位置図で黄色の自治体)

今年度も引き続きこの取組を進めることとしており、5つの自治体と協定を締結し、提案書交付に向けた意見交換や課題整理に取り組んでおります。



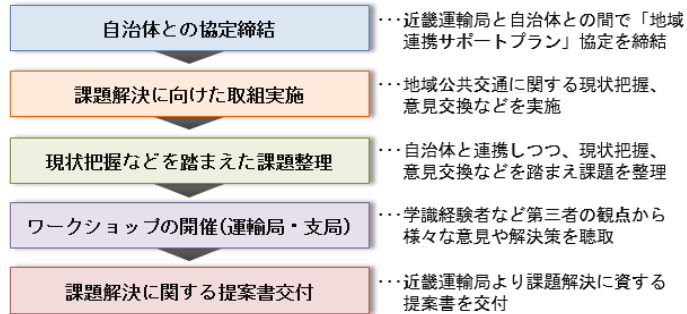
【今年度新たに協定を締結した自治体の主な課題】

- ① 滋賀県竜王町
 - ・ 竜王町にふさわしい多様なニーズに対応できる公共交通のあり方の検討
 - ・ 公共交通の利用、支援策（通学定期助成・夜間相乗りタクシー等）につながる取組の推進
- ② 京都府久御山町
 - ・ 「まちづくり」と整合性がとれた地域公共交通ネットワークの再構築
 - ・ 新規バス路線「クロスピアくみやま～松井山手駅」の利活用促進
- ③ 大阪府太子町
 - ・ 路線バスと福祉関係輸送サービスの役割の整理
 - ・ 交通結節点となる拠点の整備
- ④ 奈良県桜井市
 - ・ 市内に点在する豊富な観光資源への公共交通のアクセス・情報充実
 - ・ 利用実態に応じたコミュニティバスの効率的な運行
- ⑤ 兵庫県朝来市
 - ・ 人口確保対策やまちづくりなど市の重点施策をふまえた公共交通の見直し

「地域連携サポートプラン」の概要は、以下のホームページに掲載しております。

<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/kansai/program/supportplan.html>

『地域連携サポートプラン』の進め方



締結式の様子
(大阪府太子町)



意見交換の様子
(京都府久御山町)



現地調査の様子
(奈良県桜井市)



「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。

(中部運輸局)

中部運輸局では、平成30年11月2日(金)に、東建ホール・丸の内(愛知県名古屋市)において、「地域公共交通シンポジウム in 中部」を開催しました。このシンポジウムは、『はじまっています!つながる社会 「移動を未来へつなぐ」』をテーマに、人口減少社会を迎えて、公共交通が大きな岐路に立たされている中、困難な時代だからこそ未来に向かって大きな変革を迎え入れるチャンスの時期ととらえ「つながる」ことで「進化」する新たな公共交通の姿を考えることをコンセプトとしました。

当日は、自治体の交通担当者や交通事業者の他、自治体の都市計画担当者、IT業界やシンクタンク等、188人の方にご来場いただきました。



石澤局長による開会挨拶

【基調講演】「公共交通の役割—まちと人をつなぐ—」

大阪大学特任教授 土井 勉 氏

基調講演では、人口減少社会の中での公共交通の役割について大阪大学の土井教授にご講演いただきました。講演の中で、利用交通手段の転換や利用者側の意識の変化、自動車だけに頼らない価値観、潜在化する『愉しみ』のための交通や目的をきちんと持って地域にふさわしい仕組みを作ることなどの重要性について、具体的な事例を交えながら紹介していただきました。



大阪大学 土井氏

【講演】「MaaS でつなぐ未来の公共交通」

東京大学大学院 藤垣 洋平 氏

講演では、「MaaS」とはどのような考え方なのかを東京大学の藤垣氏に分かりやすく紹介していただきました。さまざまな捉えられ方がされている「MaaS」について、概念を整理し、各交通モードの適材適所での活用、利用者の特性や達成される状況で移動をすることや地図ベースでなく人の生活シーンの視点で考える計画の重要性などについて、分かりやすく解説していただきました。



東京大学 藤垣氏

【パネルディスカッション】

パネルディスカッションでは、事業者の枠を超えた運輸施策やダイヤ施策を推進している京都バス株式会社の児玉健氏、自らコミュニティバスの時刻表データなどのオープン化を進め、公共交通を利用しやすくした中津川市の柘植良吾氏、利用者にわかりやすい路線図・時刻表の作成などを通じて公共交通利用



京都バス 児玉氏



中津川市 柘植氏

の難しさ解消に取り組んでいる公共交通利用促進ネットワークの伊藤浩之氏を迎え、自己紹介を含めた活動内容の紹介の後、それぞれの立場の関係者が「つながる」ことで得られるメリットや解消すべき課題を議論しました。また、東京大学生産技術研究所助教の伊藤昌毅氏にも急遽登壇いただき、公共交通のオープンデータ化の現状について解説いただきました。

パネルディスカッション後半では、自治体がデータを整備する上での課題のほか、利用者、事業者、行政の望ましい関係構築や、公共交通のオープンデータの可能性などについて活発な意見交換が行われ、終盤のパネリスト間での質疑応答も含め、それぞれの立場の本音を聞くことができました。



公共交通利用促進ネットワーク
伊藤氏



東京大学 伊藤氏



パネルディスカッションの様子



個別相談会の様子

【個別相談会】

シンポジウム終了後には、自治体や事業者の方が抱える具体的な問題に対応すべく個別相談会を実施しました。自治体を中心に計画策定や2次交通に関する質問が寄せられ、個別ブースに分かれて本局・支局職員との質疑応答が行われました。

なお、当日の講演資料やアンケート結果については、下記の中部運輸局ホームページに掲載し、シンポジウムの様子はYouTubeにアップしております。(記録用動画のため、音声小さくイヤホン推奨です。)

《講演資料・アンケート》

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tsukuro/index.html#a4>

《youtube》(動画開始時分の目安) <https://www.youtube.com/watch?v=JUnr67m0ToI&feature=youtu.be>

◇基調講演 土井先生 16:45～ ◇講演 藤垣氏 1:11:49～ ◇パネルディスカッション 1:57:43～
・ 柘植氏 1:57:43～ ・ 伊藤氏 2:13:33～ ・ 児玉氏 2:27:01～ ・ 伊藤先生 3:04:56～

中部運輸局では、今後もシンポジウムなどの機会を通じて、地域公共交通の課題や期待される将来像について広く共有するとともに、交通に関する施策の推進に取り組んで参ります。



熱心に講演に耳を傾ける聴講者

**「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」
～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～を開催しました！**

（東北運輸局）

東北運輸局交通政策部交通企画課では、平成30年11月9日（金）に秋田ビューホテルにおいて「第5回おでかけ交通博2018 in あきた」～みんなで「おでかけの足」を考えませんか～を開催しました。
（共催：秋田県 協力：福島大学）

「おでかけ交通博」は、主に地方公共団体の交通担当者や交通事業者を対象として、喫緊の課題である地域の「おでかけの足」について考えるきっかけとするべく平成27年より開始し、今回で5回目（福島、弘前、山形、北上で過去開催）の開催となり、約200名の方に参加いただきました。



パネルディスカッションの様子

午前中は有識者を招いたパネルディスカッションを行い、福島大学・吉田准教授にコーディネーターを務めていただき、パネリストとしては、開催地からは秋田県庁及び五城目町役場、そして東北地方で活躍されている有識者「地域公共交通東北仕事人」の皆様にご発言をいただきました。

午後には自治体や交通事業者などの25団体に出展いただき、ポスターセッションを実施しました。各団体から1分間で取組をPRしていただき、その後、取組をまとめたポスターや資料により、それぞれの取組について説明いただきました。参加者には、興味関心のある団体の取組について、質疑応答を交えながら担当者より詳細を伺っていただきました。

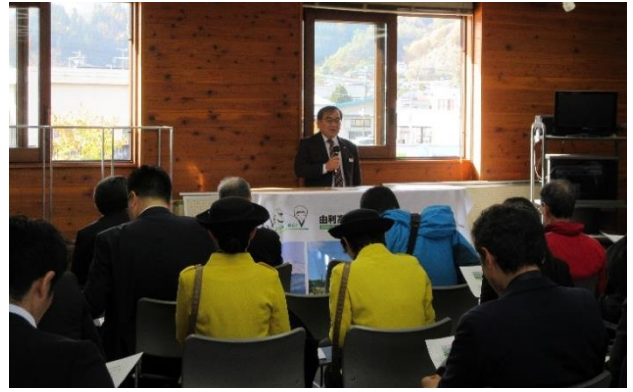


ポスターセッションの様子

また、翌10日（土）にはエクスカーションを開催し、希望者による由利高原鉄道等の視察を行いました。由利高原鉄道では、列車アテンダントが乗務する「まごころ列車」を運行しており、この平成30年7月からは、鳥海おもちゃ列車「なかよしこよし」の運行も新たに開始しました。今回は羽後本荘駅～矢島駅間を往復し、「まごころ列車」と「なかよしこよし」を視察しました。また矢島駅では、春田社長より由利高原鉄道の事業概要等についてご説明いただきました。



「おぼこ」姿のアテンダントによる説明



春田社長による概要説明（矢島駅）

今年も多数の方に参加いただきました。次年度以降においても、地域の交通への取組を後押しする機会を提供していきます。

「んだっち」と「のりたろう」のコラボ！



お出迎えとお見送りにご活躍いただきました！
ありがとうございます！

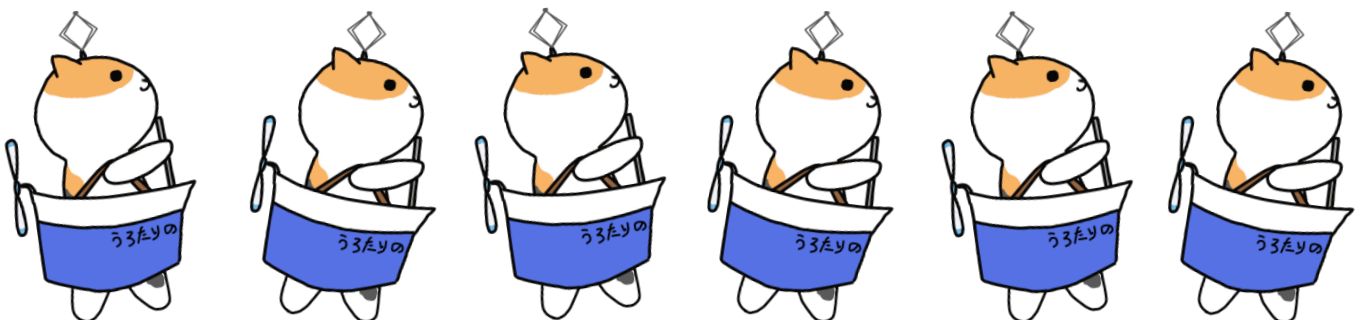
※「んだっち」って？

あきたPRキャプテン「んだっち」

近未来から秋田をPRするためにやって来た、なまはげ型の子どもロボットです。

平成27年11月24日から秋田県PRキャラクター「んだっち」として活動を開始しました。

平成30年4月1日には秋田県職員に採用され、「あきたPRキャプテン」として県内外で元気いっぱい活動しています！



**「路線バスの可能性を考えるシンポジウム」
～バス事業の取り組みビフォー・アフター
新たな取り組みにもチャレンジしています！～
を1月30日に開催します！（近畿運輸局）**

近年路線バス事業は、就労人口減少、少子高齢化により厳しい経営環境に直面していますが、高齢者をはじめとした地域住民の日常的移動手段としての役割は大きく、また、その地域を訪れる観光客の周遊手段としても期待は高まっています。

近畿運輸局においては、平成25年度から「路線バスの可能性を考えるシンポジウム」を各地で開催し、交流人口の拡大による路線バス需要の拡大や路線バスの利用のボトルネックの解消により、より使いやすいバス環境の構築を目指し、バス利用の促進を図るとともに管内バス事業者による取り組み発表を行い、地域の実情や課題を発信、共有をしてきました。

今般、過去のシンポジウムにて登壇いただいたバス事業者10者と自治体8者についてフォローアップを実施し、その結果を水平展開する事により、多くのバス事業者、自治体に取り組みの現状を広く周知するため、本シンポジウムを開催します。

【開催概要】 <http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/12pdf18-212.pdf>

- 開催日時 平成31年1月30日（水）13時30分～16時20分（受付開始13時00分～）
- 会場 大阪歴史博物館 4階 講堂（大阪府中央区）（大阪府中央区大手前4丁目1-32）
- 参加費 無料
- 定員 200名（先着受付順）
- プログラム

13:30 開会あいさつ 栗原 弥生(近畿運輸局 自動車交通部長)

13:35 基調講演 井上 学 氏(立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター
客員協力研究員公共交通アドバイザー)

14:35 パネルディスカッション

コーディネイター 井上 学 氏(立命館大学 衣笠総合研究機構 アート・リサーチセンター
客員協力研究員公共交通アドバイザー)

パネリスト

森山 豊 氏 <京阪バス(株) 経営企画室 部長>

坂部 直成 氏 <南海りんかんバス(株) 取締役社長>

児玉 健 氏 <京都バス(株) 運輸部 次長>

田中 亮 氏 <河内長野市 都市づくり部都市創生課 副主査>

山口 久夫 氏 <宇陀市 企画財政部企画課 課長>

コメンテーター

後藤 浩之 <近畿運輸局 自動車交通部 次長>

16:15 閉会あいさつ 榎元 政明<近畿バス団体協議会((一社)大阪バス協会 会長)>

- 共催 国土交通省近畿運輸局 一般財団法人近畿陸運協会 近畿バス団体協議会

■ 参加費 無料

■ 申込方法 参加をご希望の方は、貴社名、ご住所、電話・FAX 番号、メールアドレスと参加者の氏名及び所属・お役職をご記入の上、FAX または Email でお申送ください。

■ 締切 1月25日(金)

■ 参加申込先 公益財団法人関西交通経済研究センター 業務部 電話 06-6543-6291

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-2 ウエストスクエアビル 9階

fax : 06-6543-6295 Mail : a.kankou@kankouken.org

地域交通に大切な視点とは？
地域公共交通活性化シンポジウム 2月1日（金）に開催します！（近畿運輸局）

近年、人口の減少、深刻化する人手不足、国及び地方公共団体の厳しい財政事情など地域公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しております。

こうした中、これからの地域公共交通の維持・確保には、きめ細かく地域の足を考える「ズームイン」、移動の実状に即した生活圈単位での交通を確保する「ズームアウト」の2つの視点に基づく計画とその実施が求められます。

このたび近畿運輸局では、2つの視点の重要性とその実現のための関係者の協働について理解を深めるため、下記のとおりシンポジウムを開催します。

日ごろから地域交通に携わる皆さま方のご参加を心よりお待ちしております。

●開催概要

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/12pdf18-214.pdf>

1. 日 時 平成31年2月1日（金） 13時00分～16時30分
2. 会 場 大阪歴史博物館講堂（4階） ※大阪府中央区大手前4-1-32
3. 定 員 200名（先着受付順） ※参加費無料
4. プログラム

13:00 開会挨拶 近畿運輸局

13:05 基調講演 「まちをつくり、育てる公共交通の実現に向けて～鳥の目と蟻の目～」
愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授 松村 暢彦 氏

13:45 事例紹介① 「NPO法人にこにこ日土・八幡浜市の公共交通空白地における移手段確保に関する取組について」
愛媛県八幡浜市 企画財政部 政策推進課 総合政策係 主任 石河 陽介 氏

14:15 事例紹介② 「鳥取県西部地域におけるバス路線の再編について」
鳥取県 地域振興部 交通政策課 課長 矢吹 隆 氏
鳥取県西伯郡南部町 企画政策課 課長補佐 岩田 政幸 氏
日本交通(株) 常務取締役 澤 耕司 氏

15:10 パネルディスカッション

コーディネーター：松村 暢彦 氏（愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授）

パネリスト：講演者4名

八木貴弘（近畿運輸局 交通政策部長）

16:30 閉会

5. 申込方法（①または②）：（参加申込書は近畿運輸局ホームページからダウンロード可）
 - ① FAX 参加申込書を06-6949-6169に送信。
 - ② E-mail 参加申込書の内容を記入して、kkt-kinki-k57ud@ml.mlit.go.jpに送信。
6. 主 催 国土交通省 近畿運輸局
7. 後 援 関西鉄道協会、近畿バス団体協議会、近畿ハイヤータクシー協議会

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋
〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html



